

## 「地元の誇りに」バスケ3x3プロリーグ参入目指す 岐阜・垂井「レイザーボックス」

スポーツ

2023年8月21日 09:42



プロリーグ参入を目指す垂井レイザーボックスの(左から)鈴木健、梶野安里、南隼人代表、菊地京介、石井開の各選手ら(クラブ提供)

バスケットボール男子ワールドカップ(W杯)の開幕を25日に控え、岐阜県内のバスケットボールも盛り上がりを見せている。不破郡垂井町に今年2月、3人制バスケットボール「3x3(スリー・エックス・スリー)」のプロリーグ参入を目指すクラブチーム「垂井レイザーボックス」が誕生し、7月末には選手も決定した。代表の南隼人さん(40)＝同町出身＝は「垂井町をプロクラブがある町として、大きくランクアップさせたい」と意気込んでいる。

3x3は、国際バスケットボール連盟(FIBA)が推進している競技。通常のバスケットボールと比べて個人技が多いのが特徴で、2021年の東京五輪で初採用された。垂井レイザーボックスが参戦を目指すリーグ「3x3EXEPREMIER(スリー・エックス・スリー・エグゼプレミア)」はFIBAが承認する世界初の3人制バスケットボールのグローバルプロリーグ。

南さんはフリーアナウンサーで、クラブの運営でタレントやスポーツ選手のマネジメントを手がける「Gifut(ギフト)」(東京)の取締役。東京を拠点にスポーツ実況で活躍しており、バスケットボール男子Bリーグ1部(B1)のアルバルク東京のアリーナMCや、野球の日本代表「侍ジャパン」の中継番組で司会などを務めてきた。

「普段東京で仕事をしていて、『岐阜ってどこ』『垂井って何があるの』と言われるのが悔しかった」と南さん。「垂井や岐阜県の人々が県外に出たときに、『うちの地元にはプロチームがある』と誇りを持てるようになってほしい」との思いからクラブを立ち上げた。

トライアウトを経て、ロースターは梶野安里(21)、石井開(19)＝恵那市出身＝、菊地京介(20)、鈴木健(21)の4選手に決定。今後は、主に垂井町の朝倉運動公園体育館を拠点に練習を重ね、11月に行われる日本選手権県予選大会の優勝を目標に活動する。さらに、今秋のリーグ入会申請と24年シーズンからの参入に向けた準備を進めていく。南さんは「垂井の町を本気で変えていきたい」と意欲を語る。

**【3x3】** ストリートバスケットボールから発展した3人制の競技。コートのはしは5人制の半分ほどで、1チームは4人(コート上は3人)。1試合は10分間、または21点先取。正式種目として初採用された東京五輪では、男子はラトビア、女子はアメリカが初代の金メダルを獲得した。日本は男子が6位、女子は5位だった。